



今回は、1年7組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち1班は関市役所を訪問しました

研究テーマ：自然とアートと私と。

日時：2019年8月16日(金) 13:00 ~ 16:00

訪問先：関市役所

参加者：後藤愛 櫻井惇稀 高井美大 羽田野柚妃 波頭和香羽 南凜 森悠真

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



今回のフィールドワークを通して、私たちは次の3つのことを学びました。

- ・関市のアートが自然や伝統であること
- ・自然と伝統が関市で多く活用できること
- ・関市にはたくさんの自然や伝統があること

多くの人に関市の魅力に触れてもらうために、これからもっとたくさん、関市について理解を広

げていこうと思うことができました。



◇ 私たち2班は洞戸を訪問しました

研究テーマ：発見！関市の新たな魅力

日時：2019年8月9日(金) 10:00 ~ 16:00

訪問先：岐阜県関市洞戸地域

参加者：木村奈々美、芝大介、瀬野彩七、谷村宗晃、土屋陽加、藤田爽斗、松井蒼真

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



関市の新たな魅力を発見するためのフィールドワークでしたが、新しい魅力を見つけるということが、かなり難しいことであるということがわかりました。

また、同じ地域でも、観光地としての魅力の数に差があることもわかりました。

私たちは、洞戸地域の発展のための課題解決を目指して取り組んできましたが、町を発展させることの難しさに気付かされました。





今回は、1年7組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち3班はモネの池, 板取川を訪問しました

研究テーマ: 自然の楽しさを伝えよう

日 時: 2019年8月3日(土) 9:00 ~ 14:00

訪問先: 名もなき池, 板取川

参加者: 足立莉子 石原虎太郎 笠原結斗 島敦輝 高橋志歩 古田凜奈 森一晋

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



板取川とその周辺へフィールドワークに行ってみると、観光客の人がたくさんいて、中には外国の方もいました。この地域を調査したところ、近年、観光客が増加したためか、利用方法などを説明した看板が多く見つかりました。モネの池では綺麗なコイなどが泳いでおり、森や川などで囲まれていて、自然豊かでした。今の関市は多くの自然があるのに訪れる人が少ないと思いました。



◇ 私たち5班は関牛乳を訪問しました

研究テーマ: 関PR

日 時: 2019年8月12日(月) 15:00~ 16:00

訪問先: 関牛乳

参加者: 高井聖也 沼田弦也 吉村淳史 山口華乃 古屋日和梨 梅村明花

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



私たちは関牛乳の工場への訪問を通し、地域との強いつながりを感じました。昔ながらで、牛乳本来のうまみを引き出す製造方法により地域から愛され続けているとわかりました。

また、低温殺菌や地産地消などのこだわりがあり、近くの農場の生乳を使うことで、より鮮度の高い牛乳を地域の人に提供していると知りました。こだわりがある分、値段は高くなるけど、よりおいしい牛乳を作って地域を盛り上げようという気持ちが伝わってきました。

さらに、牛乳を使ったクッキーやアイスなども作っており、コンビニエンスストアやサービスエリアで販売しています。これからも新しい商品をつくり、東海地方だけでなく、全国に関牛乳の魅力が広がって欲しいです。





今回は、1 年 7 組のフィールドワークの報告をします。

◇ 私たち 6 班は関・美濃・郡上を訪問しました

研究テーマ：中濃をチャームングにする

日 時：2019 年 7 月 29 日(月) 13:00 ~ 16:00

訪問先：刃物会館・うだつの町並み・郡上八幡

参加者：相宮美咲・河合花果・河井千茜・神部叶和・小山政亮・和田陽喜

◇ フィールドワークを通して学んだこと・感想



フィールドワークでは、関・美濃・郡上それぞれの観光地に行きました。それぞれの町の歴史や文化にふれ、よりたくさんの方に魅力を発信していきたいと思いました。

日本人だけでなく、外国人観光客の方も多くいたので、グローバル化が進んでいるなか、自分たちにできることは何か考えるきっかけになりました。

それぞれの観光地に共通していたこととして、長良川鉄道が近くを通るということがあったので、上手に利用ができたらいいなと思いました。それと同時に、長良川鉄道の列車内は外国の方が利用するには、日本語の案内がほとんどで利用しにくいことが分かりました。より多くの外国人観光客に来てもらうためには、工夫したパンフレットなどの案内が必要だと感じました。その例として、多言語対応の案内、駅周辺の観光地を図や絵を用いての表示、SNS での情報発信らがあると思いました。

若者である私たちが、これからの観光事業を盛り上げていくことで、よりその地の魅力を発信していくことができると思います。今回学んだことを生かして、これからも町の魅力を伝えていきたいです。

11 住み続けられる
まちづくりを

